



一手先を読んで行動する!

藤井聡太棋士が、最年少で将棋界最上位のタイトル（竜王）を獲得し、クワダブル（4）（他に王位・叡王・棋聖）を達成しました。こうなると前人未踏の全タイトル、オクタプル（8）（残り名人・王座・棋王・王将）の獲得を期待したくなります。羽生善治九段はトリプルを初めて達成してからタイトル防衛と獲得を重ね、25歳でセプタプル（7）を達成するまで、ほぼ負けなしで3年かかったそうです。そう考えると、オクタプルの獲得は夢のようなことかもしれませんが、藤井棋士にはその偉業を成し遂げられる予感がします。ところで、私が幼い頃から父は、夕食が済むと毎晩のように隣の叔父と我が家で将棋を指していました。勝つコツは「先を読むこと」と父が言ったことを記憶しています。直接教わることはしませんでした。それを意識しながら二人の将棋をながめていたからか、小学校の必修（将棋）クラブでは、上位にランキングされていました。羽生9段は、過去のインタビューで「読む手数」について、直線で「30～40手」、枝葉に分かれて「300～400手」と答えています。将棋や囲碁に限らず、その道のプロは、「先を読む」高い能力を持っています。ボクシングであれば、相手より先に動きを読むことができれば勝つ確率は高まるでしょう。株や投資なら、世界の動向を常に把握し、関連する企業に関わる出来事から派生する様々な方向から数年先までのことを読み当て、成功につなげられるでしょう。「400手先」など全く想像できませんが、「一手先」なら中学生にも読むことができるのではないのでしょうか。「先に挨拶しようとする」「相手が求めている事を先取りして行う」「車が出てくるかもしれないので先に止まる（危険予測）」など、社会で互いに気持ちよく生きていくうえで、また、自分で自分の命を守るためにも「一手先を読む」ことは、身に付けておくべきことかもしれません。